

第7回門真市学校適正配置審議会議事録

開催日時 令和2年1月30日（木） 午後2時～午後4時10分

開催場所 市役所別館3階 第3会議室

出席者 横山俊祐、浦嶋敏之、西孝一郎、松崎淳子、後藤忠夫、日置芳太郎、上村梨恵、加藤諭、濱崎恵子、国吉孝、上甲尚、明智威久

事務局 邊田副教育長、満永教育部長、西口管理監、中野教育部次長兼教育総務課長、峯松学校教育課長、渡辺教育総務課参事、宮崎教育総務課長補佐、柳瀬学校教育課長補佐、前馬教育総務課副参事、松本学校教育課副参事、永田教育総務課主任、長教育総務課主任

傍聴者 3名

議 事

○開催

事務局

定刻となりましたので、第7回門真市学校適正配置審議会を開催いたします。

本日はご多忙にもかかわらず、ご出席いただき誠にありがとうございます。

本日は、委員16名中12名がご参加いただいております。門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第5条2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

本日は、吉岡委員、村上委員、清水委員、大田委員はご都合がつかず、欠席となっております。

なお、後日議事録を作成するため、会議を録音させていただいております。ご発言に際しては、お手元のマイクのボタンを押していただきますようお願い申し上げます。

それでは、お手元の資料の確認をしたいと思います。

1点目 会議次第

2点目 答申（案）

3点目 資料編

となっております。すべてそろっておりますでしょうか。

それでは、おそろいのようなので、進めさせていただきます。
以降の進行は、会長にお願いしたいと思います。
会長よろしくおねがいします。

会長

みなさん、こんにちは。この会も7回目になりました。残すところ、もう1回、次回の8回目で完了ということになります。今日の議題は、お手元にあります、事前に配布していたと思いますが、門真の目指す教育とこれからの学校づくりについての答申(案)、これについて細かいところを含めて、これをチェックして最終的な答申(案)として仕上げるというのが、本日のこの会の役目でございます。

皆さんお読みいただいているとは思いますが、原案を丁寧に作っていただいていますけど、まだ足りないところとか、こういう言い回しがいいんじゃないかということもあると思いますので、まずは今までの議論を全部まとめる形で作っていただいた事務局から、少しずつ説明していただいて、それに対して意見を出していただいて、これをより良いものにしていくというような流れにしたいと思いますので、どうぞ皆さん遠慮なくご意見を今日はお願いしたいと思います。

答申(案)を全部一気にやってしまうと大変ですので、ある程度に分けて説明とやり取りを繰り返していきたいと思いますので、よろしくおねがいします。

まずは、お手元に配られている本日の資料と、事前に郵送で届けられている答申(案)と若干の変更がありますので、その変更点の説明、それから答申(案)全体の構成、「はじめに」の説明、「教育委員会からの諮問」について、まずこの部分から議論したいと思いますので、事務局の方からご説明をお願いします。

事務局

失礼します。教育総務課でございます。

まず、先ほど会長からご説明がありましたように、「事前にお配りした答申(案)からの変更点」、「答申(案)の全体の構成」、「はじめに」、それから「教育委員会からの諮問について」私の方から説明させていただきます。

まず、事前に委員の皆様へ送付した答申(案)と本日お配りした答申(案)、本日の方は表紙の右上に本日の日付と第7回審議会資料と書いておりますが、こちらの変更点について説明させていただきます。

答申(案)の3ページ「2 門真のめざす教育とこれからの学校づくりの方向性」をご覧ください。こちらの冒頭部分につきまして、皆様に答申(案)をお送りした後、もう一度事務局内で検討を行った結果、文言を少し変えさせていただきました。

きました。それに伴い、ページのレイアウトがやや変わっております。大きな変更点としてはこの部分のみとなっておりますので、大きく内容が異なっているということではございませんので、事前に送付させていただいた答申(案)を見てもらっても結構ですので、ご意見いただけたらと思います。

続いて、答申(案)全体の構成についてです。答申(案)の表紙をめくっていただき、目次をご覧ください。構成としては、これまでの6回の審議会の経過をまとめたような形となっております。本審議会では前半に門真のめざす教育について議論し、その目指す教育を実現しうる学校のあり方について、第3回審議会前には視察も行い、また、現在の市内の学校の様子等も見ていただきながら議論していただきましたので、その前半に議論いただいた内容を「2 門真のめざす教育とこれからの学校づくりの方向性」としてまとめております。

次に「3 学校の再編にあたっての基本的な考え方」につきましては、主に後半の議論の内容となっております。門真のこれからの教育を実現しうる学校をどこに創っていくかを議論していただきましたが、その際、様々な視点から門真市の地図を見ていただき議論していただきました。その検討する際の視点を3にまとめております。

続いて「4 具体的提言」については前回、前々回の議論の内容です。「3 学校の再編にあたっての基本的な考え方」を基に、市全域で検討していただいた結果をまとめております。また、続いて「5 これからの門真の学校づくりの留意事項」として、具体的提言の実現に向けても含め、これからの門真の学校づくりを行っていくにあたって気を付けるべき点を、審議会にてご意見いただいた内容を基にまとめております。

この答申(案)を順番に読んでいけば、第1回目から第6回目までの審議の内容を順に追って確認していけるというような構成としております。

以上、構成の説明を終わります。

続いて、1ページ目「はじめに」の説明です。まずは読ませさせていただきます。

< 1ページ 「はじめに」 を朗読 >

内容としましては、世の中も含め、教育内容が大きく変わっている現在、学校も変わらなければならない時期が来ていることが言及され、審議会が立ち上げられた経緯を説明しています。また、本審議会にて特に大切にされてきた、「単に数合わせではなく、これからの門真の子どもたちに大切なことは何か」ということがしっかりと議論されたといった内容となっており、「つながり」がキーワードとして話し合いが進められたことを記載しております。

続いて2ページは、「1 教育委員会からの諮問内容」として、諮問の内容

をそのまま掲載しております。

長くなりましたが、こちらについてご意見ございましたら、よろしく願いいたします。

会長

ありがとうございました。それでは、全体の構成というところの「目次」、それから「はじめに」、「教育委員会からの諮問」、この3ページに関してのご意見、あるいは、こういうふうにした方が良くはないかという助言がありましたらお願いしたいと思います。完璧でしょうか。ちなみに皆さん読んできていただいていますよね。学校の先生方どうでしょうか、宿題はちゃんとやってきていただいていますでしょうか。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは私からとても細かいところを。「はじめに」の上から2行目で“学校再編に既に取り組みられてきています。”の部分で、平成10年を皮切りにと書いてあるので、“既に”はいらないですよね。それから、4つ目の段落の“学校のあり方が大きく問われている中”という部分で、“大きく”はいらないと思います。

他は大丈夫ですか。

委員

大丈夫です。

会長

それでは次の塊として。3ページ目の「2 門真のめざす教育とこれからの学校づくりの方向性」から4ページ以降、6ページまでです。

事務局

3ページ目からの「2 門真のめざす教育とこれからの学校づくりの方向性」
(1) 門真のめざす教育について説明します。まずは読ませていただきます。

< 3～6ページ 「2 門真のめざす教育とこれからの学校づくりの方向性 (1) 門真のめざす教育」 を朗読 >

こちらにつきましては、前半の議論のまとめとなっております。3ページにはこの審議会の役割と、これからの門真の子どもたちにとって大切な教育とは何か、そして、それらを実現しうる学校はどのようなものであるのかを考え、より良い学校を創っていきましょう、ということで議論が始まったということを書

いております。

4ページの(1)門真のめざす教育からは、委員の皆様からご意見を頂いた「つながり」をキーワードとした、門真のめざす教育を「縦のつながり」「横のつながり」「将来の自分とのつながり」の3つのつながりを中心に説明しております。

これらのつながりを大切にしながら、将来の自立をめざして自分の生き方を見つける教育を実現していく、という審議会でもまとめられた【図1】も併せて載せております。

以上となります。ご審議よろしく願いいたします。

会長

ここら辺は、最初の頃の門真のめざす教育とか、これからの学校づくりのあり方について、皆様方で議論していただいた内容を非常によくまとめていただいていると思います。それに関して、最終的なご指摘があればよろしく願いしたいと思いますが。

委員

この審議会への諮問が2ページにある通り、一番目には第3次答申の再検討が掲げられていました。この審議会の1回目で説明のあった、第3次答申の内容については、10年たった今では教育環境や教育内容も大きく変わっていることから、この1年間で第3次答申の内容だけを審議するのではなく、これからの門真の教育理念や内容、そして、それにふさわしい学校のあり方を考えることができたと思います。そういう意味では、本答申(案)の3ページ目にあるとおり、この審議会の役割について、きちんと書かれてあることは良いことだと思いました。

会長

ありがとうございました。本当に良くまとまっていると思いますが、いかがですか。もう、細かい話でも結構ですけれども。

副会長

こだわることではないのですが、5ページの“このような観点から、施設が一体となった小中一貫校(義務教育学校)は”というところですが、後のことも含めて、“小中一貫校、とりわけ施設一体型は”とか、ピンポイントで施設一体型という表現なので、この後の広がりから考えたら、施設一体型に限定しない表現にするべきではないでしょうか。

会長

全部、施設一体型でやっていくのか。やれるのかということですね。確かにそうですね。

副会長

そうです。少しだけ表現を変えたほうが良いと感じました。

委員

委員の方々いかがですか。ここで直した方がいいということになれば、答申の内容はそういう方向になると思いますが。

副会長

ここの文章の意味合いで言えば、私たちは施設一体型だけを実際に観に行きましたから、そう意味で書いているのだということであれば、そのままでいいと思うのですが。

委員

ちょっとだけ気になるのが、これでまとまっているとは思いますが、地域と学校という形になると、教育現場の方が地域の人をいかに上手くしてくれるか、疑問が出てくるのではないかなと、この状態では感じました。

会長

施設一体型とは別の話ですね。

委員

別の話です。地域との触れ合いという形になってくると、学校現場の方が何かあったときに、困える部分がいまだにまだあるので、それを払拭することができるのかも、この中に少し入れておいた方が良くはないかなと思いました。学校現場としては、こういうふうに取り組んでいきたいと思いますが、というふうな形で、ひと項目入れておいた方が。でなければ、これを読んだ人は、地域はこれだけ動いているけど、学校はどないなんやと。学校は受け入れてくれるのか、という疑問を持つと思います。

会長

そういう意味では、動いていく。動いて行ってほしい。と言っているわけですから、学校がこれを読んで、このような答申が出ているわけですから、それを理

解して前に進んで行こうというふうになるということで、あまり学校がこれを嫌がっているとか、そういうことを…。

委員

ではなくて、学校がそういうふうを受け入れできる体制にもっていくように努力しますとか、そういうような一言があればね。

会長

ですから、それはこれからの話だと思いますので、ちょっとそこまでは書き過ぎかなというふうな感じがしますがけれども。

さっきの、施設が一体型になったというのは、その文章の最後に“有効な手段の一つであると考えられます。”ということで、これだけを目指すというふうには読めなくもなる、そうじゃなくてほかの方法もあるんだというふうに言っているようにも読めるのですけれども。

委員

“施設が一体型になった小中一貫校”をこの時点で否定してしまうのは言い過ぎかもしれないなとも思います。

会長

さっき先生がおっしゃったぐらいで、“とりわけ”ぐらいの方がいいのかもしれないですね。

委員

もう少し緩めて“施設一体を含めた小中一貫校”だとか。

会長

そうですね。

副会長

どの地域でも、施設一体型ではなくても小中一貫校はすべきとおっしゃっていたので、小中一貫校というのが主たる目標なのかなと。施設一体型でなければ、この後に書いてあることができないのかと捉えられても困るかなというふうに思いました。

委員

“施設一体型などの小中一貫校”という表現がいいのですかね。

委員

日本語は難しいですが、それでいいのではないのでしょうか。

委員

ついでに、細かいことでもいいですか。6ページの2行目の“地域には”となっていますが最後が“人材の宝庫です。”となっているので、“地域は”となります。

会長

そうですね。

他はいかがですか。

私から細かい話ですが、5ページの②「横のつながり」のところで、1行目のところで“学校を越えた同年齢の子どもどうしの関わり”というところですが、学校を越えると同年齢ではなくてもいいのではないかと思うのですが、「縦のつながり」というのは時間軸。「横のつながり」というのは空間的な広がり、空間軸で見ているような気がするので、個人がいてクラスがあって学年があって学校があって地域に広がっていくという広がりを考えていくと、必ずしも学校を越えたところでは、同年齢じゃなくてもいいのではないかという気がしますので、“同年齢”というのは外して良くないですか。“学校を越えた子どもどうしの関わり”がいいと思いますがいかがですか。

委員

学校を越えたら同年齢だけではダメですからね。いいと思います。

会長

3ページの下段落は一つの文章なのですね。文章が長いのは頭のいい人だっってよく言うのですが、ちょっと長すぎて、一回切った方が良くないですか。どこで切ればいいのかというと、“考えた上で”というところで切った方がいいのではないかと思うのですが、“考えました。”として、少し戻って“本審議会では、まずこれからの門真の”として、“そのうえで改めて、それらを実現できる”とした方が分かりやすいと思います。

それから、下から5行目の“門真の子どもたちがどのように育ってほしいか”というところで、育ってほしい時は“子どもたちに”の方がいいと思います。

委員

私も、文章の長さの問題で2点ほど感じたのですが、4ページの2行目の“関りのできるつながりのことである。”として、5ページの「横のつながり」の部分で“関りによってできるつながりである。”として、6ページの「将来の自分とのつながり」の部分で“出来上がってくるつながりである。”というふうに文章を切った方がいいのではないかなと思います。

委員

“ある。”で切った場合に、です・ます調が崩れてくるので“です。”で切った方がよいです。

会長

他にはいかがでしょうか。

それでは、6ページまでに関してはご意見がないということで終了します。

つづいて、7ページから9ページまでで「(2)門真のめざすこれからの学校づくり」について審議したいと思います。

委員

すみません。終わってから気づきました。さっきの5ページの②「横のつながり」のところで、ここは“関わり”で良いのですよね。“関わり”が“つながり”になるという文章ですね。わかりました。

“関わり”は漢字に統一が良いですね。

会長

それでは、7ページ以降をお願いします。

事務局

続いて、7ページ(2)門真のめざすこれからの学校づくりについて説明いたします。まず読み上げさせていただきます。

< 7～9ページ 「2 門真のめざす教育とこれからの学校づくりの方向性 (2)門真のめざすこれからの学校づくり」 を朗読 >

こちらの(2)につきましては、先ほどご意見いただきました、めざす教育の議論を受け、それを実現する学校はどのようなものかということを話し合っていたいただいた内容をまとめたものになります。大きく3点、人とのつながりの中

で学び育つ学校づくりの視点、これからの時代、これからの門真に対応した学校づくりの視点、そして、快適で楽しく過ごせる場としての学校づくりの視点、として整理しております。

7ページの【図2】については、審議会にて皆さんで議論していただいたまとめとして出させていただいたものとなりますが、今回、答申（案）を作成するにあたり検討するなかで、【図2】は審議会で皆さんにつくっていただいたものですが、文言の1部を修正しておりますが、基本的な考え方は変わっておりませんのでこちらについてもご意見いただけたらと思います。以上です。

会長

ありがとうございました。いかがでしょうか。

委員

ちょっと教えてほしいことがあります。8ページの②下の最初の○(丸印)の部分で“めざすこども像”のところ、“こ”がひらがなですけれども、他の部分で出てくる“子ども”は漢字を使っているのです、この辺のところは統一した方が良いのではないのでしょうか。

会長

これは何か意図があるのでしょうか。

事務局

学校づくりのところの話をしたのが、第5回のところだったと思うのですが、その時に、これまで門真がつくってきたこども像の「めざすこども像」というのがありまして、そこはひらがなになっております。これまで審議会では、ひらがなの「めざすこども像」を使ってきたので、事務局としてはそのまま使っているというところがございます。

会長

ある意味、固有名詞的な使い方であるならば、「」をしておいた方が良くないのでしょうか。

事務局

今回ご意見いただきまして、改めて“めざすこども像”が固有名詞で使われてきたのか、特に意味のないものなのかを整理したうえで、第8回までに考えていきたいと思っております。

委員

すみません。7ページの冒頭2行目の“考え方”をまとめたのでしょうか。“考え”をまとめたのでしょうか。あるいは“次のようにまとめました。”ぐらいでもいいと思いますが。考え方ではないような気がします。

委員

私は、どちらでもいいように思いますけれども。聞いてみたら違いますね。これ、読ましてもらったのですが、すごくいいなと思いました。それだけでございます。

会長

“次のとおりまとめました。”にしましょうか。

委員

それでいいと思います。

副会長

8ページの先ほどの②下の○(丸印)2つ目のところで、タイトルが“新しい教育内容に対応した学校づくり”となっていますよね。下の文章の中は“新しい学習形態に適応した”という文章になっているので、ここをどう解釈したらよいでしょうか。少し、タイトルと中身が合っていないと感じます。

形態と内容の違いです。

会長

形態と内容ですか。

実は、これはアクティブラーニングのことを言っていると思うのですが、アクティブラーニングは形態ではないと思っています。そういう意味で、そこは私も気になったところではあるんです。だからと言って“内容”でもないですしあれはやはり“方法”とか“理念”というようなものだと思っているのですが、どうでしょうか。

専門家の先生方はどうでしょうか。

委員

なるほどと思いました。“新しい教育の方向に対応した学校づくり”みたいなことで、直すのであれば“主体的で対話的な”ときて、なぜ“深い学び”を入れてないのかということになるので、“主体的で対話的で深い学びといった新しい

学習の方向”とか“主体的で対話的で深い学びといった新しい教育の方向に適応した”のような文章で、“主体的で対話的で深い学び”はカッコの中に入れてしまうというのはどうでしょう。

深い学びというのは、教育の方向ですか。学習の方向ですか。どっちかわからないですが。

会長

教育から学習への転換と言っていますから、どちらかと言えば学習ではないでしょうか。

委員

主体的で対話的で深い学びの主体者は子どもなので、そうなれば学習の方向になります。

事務局

“学びのあり方”ではどうでしょうか。

会長

“新しい学びのあり方”。

委員

わかりやすく、いいかもしれませんね。

委員

それに合わせて、タイトルも合わせておいた方がいいですね。標語が出た後ですが、内容は変わっていないので大丈夫だと思います。

会長

他はよろしいですか。

ちょっといいですか。【図2】ですが、一番下の“人がつながり、みんなが楽しく過ごせる学校づくり”の左側の、“快適で楽しく過ごせる場としての学校づくり”が丸になっているのですが、上の2つは四角に囲まれているので、これを同じフォーマットにした方がいいのと、上の2つは横同士でつながっている感じがあるのに、下は(快適で楽しく…)ぜんぜん参加していないから、これは参加させていただきませんか。矢印か何かで。

事務局

意図としましては、2つの四角枠よりもう1つ大きい四角枠が下とくっ付いて全体を包含しているというのが、第5回のまとめとして作ったのですが、どういふふうに表現するかというところではあります。

会長

なんか、これだけ別物に見えてしょうがないのですが。

事務局

外枠の四角が、下から広がって全体を包んでいるという意図であります。

会長

薄いトーンのところは全体ですよ。これで3つの良さがあるということで良いんですけど。なぜ横の2つは矢印があるのでしょうか。

事務局

この矢印は、意図としては大きく3つに分けて書いていますが、「人とのつながり」という観点で学校づくりを考えた場合と、「これからの時代、これからの門真に」という観点で学校づくりを考えた場合とは、重なる要素も非常に大きいかないという議論がありましたので、双方がきれいに分かれるものではなくて、関連しますが、視点を整理したときには、左と右の分け方ができるのかなというところで、双方に矢印を書かせていただいた経緯はあります。ただ、これも審議会のなかでの答申の一案ですので、ここで形を変えるのは構わないのかなと考えます。事務局としては、一度了承を頂いたものですので、根本から変えるというのはどうかなというところもありましたので、第6回のときにまとめたものそのままを掲載させていただいています。

委員

今のような感じであれば、色のついた枠の下のラインをもう少し上にあげて、“人がつながり、みんなが楽しく過ごせる学校づくり”の真ん中を横切る感じにしておくと、この上の2つを総括している状態になるイメージに見えるのですが、どうでしょう。

事務局

この資料はカラーで作成してまして、カラーで見るともう少しわかりやすいのですが、モノクロになっているということもありまして、ただいま委員がお

っしゃっていただいたことも含めて、こうしたらいいのではないかという案も議論いただいたうえで示していきたいと思います。

会長

“快適で楽しく”がどういう位置づけなのかというのが、パッと見たときに分かるようにしていただければよいと思います。

他はいかがですか。よろしいですか。

委員

大丈夫です。

会長

それでは次に行きたいと思います。10 ページ以降。10～11 ページですね。

「3 学校の再編にあたっての基本的な考え方」をよろしくお願いします。

事務局

10、11 ページの「3 学校の再編にあたっての基本的な考え方」について説明いたします。

こちらは、先ほどのこれからの学校づくりの考え方を基に、検討する観点をまとめたものとなります。まずは読ませていただきます。

< 10、11 ページ 「3 学校の再編にあたっての基本的な考え方」を朗読 >

審議会では各校区ごとに地図を見て検討いただいたかとは思いますが、地図を見て考える際の観点をまとめております。(1) つながりを創るための検討として、多様な人間関係を構築するための検討が大事ということでまとめており、(2) これからの時代、これからの門真に向けての検討では、市として短期的、中期的、長期的に全市的に考える必要があるということ、(3) は快適で楽しく過ごせる学校に向けての検討として、学校の築年数を考慮しての検討をすべきではないかということでまとめております。

これらの視点で市全域を検討し、次のページからの具体的提言に至ったという流れとなっておりますので、こちらにつきましてご意見ございましたらよろしく願いいたします。

会長

ありがとうございます。前半の門真の教育はこういう方向に行きたい、あるいは、こんな学校を創りたいという、ある意味夢とか理想に向けて、学校再編をどう考えるのかというつなぎの部分になっていて、非常によく整理されたところだと思います。これについていかがでしょうか。

委員

10 ページの真ん中辺りの校区の広さ（人的資源を含む）のところですか。“地域のよき大人との出会いを増やす”という言葉が少し引っかかってしまいます。“よき大人”という表現以外で、例えば“地域で生きる人々との出会いを増やし”といったほうが良いのではないのかなと思いました。

会長

“生きる”ですか。“地域の人々”ではなくて。

委員

“地域の人々”でも構いませんが、豊かに生きるということを表現したいというか、“よき”を違う言葉に直してみようかなと思ひまして。

会長

では“地域で生きる”で。

委員

“よき大人”と書いていたら少し引っ込んでしまいます。

会長

それでは“地域で生きる人々”少し素朴感が出ますが、この表現にしましょう。それとちょっとお尋ねしたいんですが、①の中で、“横のつながりの中で育つ環境”と書いてありますが、“縦”はいらないんですかね。

委員

縦もありますよね。考えてみたら。読んだときにすごくまとまっているように感じましたが、加えたほうが良いとおっしゃられるとその方がいいですね。

会長

①が“縦、横”、②が“横”、③が“縦”となるので。実際には学校の中で子ど

もの数の話をしたときは横だけではなくて縦の数の問題もあると思うんですよ。学校としては縦も横も大事だと思うんですがどう思われますか。

後ろに単学級とか複式学級という話が来ているので横ですかね。子どもたちが多様な人間関係の中で学び、人とのつながりを創るためには、一定数の児童・生徒が共に学ぶということを考えると縦と横でよさそうな気もするんですけど、学校の先生方はいかがですか。

委員

そうですね。縦も横も。

会長

横って言いすぎると学年で単学級だの複式だのっていう話だけになってしまいますので、学校全体で見た時にも数が少ないのは困るかなということもありますので、縦も入れるということで。

他にありませんか。

副会長

11 ページの（3）の「快適で楽しく過ごせる学校」の3行目のところで、“建替えや改修を検討する時期”という表現がありますが、検討段階のレベルなのか、建替えや改修が喫緊の課題となっているのか、もう少し差し迫っている感じがあるほうがいいのではないかと思います。この間、この中での議論では検討というレベルではなくて、どうにかしないとイケないという状況であったと思います。

会長

もう少し喫緊の課題というふうに言ったほうがいいですか。でも実際に40年を越えていたら必要ですもんね。

副会長

検討する時期というようなレベルなのかなと思いました。

会長

少しまだ余裕があるような言い方ですよ。

委員

余裕はないと思います。

副会長

建替えや改修が喫緊の課題になっている、必要になっているといったような表現はどうでしょうか。

会長

では、“建替えや改修が喫緊の課題になっている”にしましょうか。よろしいでしょうか。

事務局

先ほどの話の部分で、“そのほとんどが”喫緊の課題と読めてしまうようになってしまいうんですがいかがでしょうか。喫緊の課題の学校もあるとは思いますが。

委員

即やっついていかないといけないところもあるし、まだ少し余裕のありそうな学校もあるし、現実に応急手当てが必要な箇所もあるし、どういう表現がいいですかね。

委員

そこだけをクローズアップするのは難しかったんだと思います。

事務局

そこまで書けないという思いはあったと思いますが、審議会として書いていただくということであれば問題ありません。

委員

例えば、“改修の検討を急ぐ時期にもなっている”といった言い方もあるように思います。喫緊と書くと少し表現として厳しいのかなという感じですね。

委員

でも検討するでは間に合いませんよね。

事務局

一刻も早く着手する必要とか、順序があるのかはわかりませんが、喫緊の、本当に重要な課題なんだというふうにおっしゃって頂く分には我々としてもありがたいなと思います。

委員

“検討”を抜いて、“改修する時期に来ている”としたほうがいいのかもありませんね。

委員

おそらくそこがクローズアップされると、今回の提言の大きな部分に関わってしまって、“快適な”というところだけが大きく出てしまうのではないかと、思います。それがこのニュアンスに出ているのだと思います。もしかすると（１）のような状況の方が喫緊の課題かもしれないので、（３）に喫緊という言葉を持ってくると。

副会長

では、検討だけ取りましょうか。“建替えや改修をする時期になっている。”これは事実ですよ。検討が弱いなど思っているだけなので。

会長

“改修を行う時期になっている。”がいいですね。検討は少し弱いので。“時期に来ている”のほうがいいですね。

委員

こちらでいいと思います。

会長

よろしいですか。では10、11ページは以上でオッケーということでもいいですね。では次に行きたいと思います。

次はですね、12ページですね。具体的提言の1つ目の四中校区についてお願いします。

事務局

12ページ、4の具体的提言について説明いたします。ここからは3つの提言を記載しています。記載内容については、具体の提言を四角囲み内に示し、その考えに至った経緯や議論の内容についてはその下に書いており、現状を踏まえての提言と、期待される効果と留意点という形で、3つの提言とも同じような流れで書いております。

では、（１）第四中学校校区の小学校及び中学校の再編について説明いたします。では、まず読みます。

< 12 ページ 「(1) 第四中学校校区内の小学校及び中学校の再編について」
を朗読 >

こちらは、今読んだ通り、先ほどの 10、11 ページの学校の再編にあたっての基本的な考え方をベースに、審議会で議論していただいた内容を、このような形で提案することとなったという流れです。

ここからは、具体の学校名が出てきて、この議論の後、最終答申という形で出ていくものとなりますので、重要な箇所となると思われますので、ご意見の程どうぞよろしくをお願いします。

会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。ここからは実践的な話になります。

ちなみに、小学校敷地と中学校敷地の間の道路を付け替えて一緒にするという可能性はあるんですか。

事務局

最終的に学校の配置であるとか、敷地をどうするのかということは、これから地域も含めて色々話をしていきますが、可能性がゼロだとは考えていません。

会長

道路の付け替えで、一つのまとまった敷地にする可能性もありますか。

事務局

それも検討の一つとして考えています。

委員

言葉の使い方で教えていただきたいのですが、“提言”と“提案”です。文中では“提案”でいいのかなとも思うんですが。“提言”の定義は、いわゆる第三者が、公的機関に向かって提言するものなので、この審議会が提言するわけですよ。我々は第三者で、利害関係のないところで動いているわけですよ。

“提案”はどちらかというと部内者の中で使うようなイメージなので、“提言”と“提案”の使い分けについて整理していただけたらと思います。“提案”の方が広い言葉ですし、文の中でどちらを使うのが難しいのですがいかがでしょうか。

会長

今おっしゃられていることは、文中には“提案します”と書いてあるけれど、最初の部分は“現状を踏まえての提言”となっていて、“提案”と“提言”が混じっているということですよね。

委員

文中を“提言します”とするのか、このままでいいのか。

会長

“提言します”というのも変ですよ。こういう提案をした全体のことを提言と言うんですよ。

委員

基本的に“提案”の方が広い言葉で、第三者が関わった場合は“提言”、公的機関に対する、諮問に対する答申は“提言”となるかと思います。

会長

では、タイトルとしては“提言”で、具体的な中身としては“提案”でいいんですね。文中で“提言します”と書くと少し合わないなという気がします。

事務局

この文章を整理していく中で、我々としては、下にある、期待される効果と留意点も含めての部分が提言だと思っております。小中一貫校を創るであるとか、どこの学校を統合するという事は一つの提案であって、それによってこういうことも期待されるし、こういうことも気を付けてね、というところまで含めて提言と思っていますので、文中に“提言”と書くのも変だなというのもありましたので、文中では“提案”と書かせていただきました。正しくはどうなんだというところについては勉強不足の部分もあります。

委員

整理して考えられているのであれば、どちらが正しいということではなくそれで構いません。

もう一つ漢字の使い方、小中一貫校を創るという場合などは創造の“創”の“創る”ですよ。これも意味合いを持っておられますよね。何か所か出てきていますよね。

会長

つながりは“創る”ですよね。

委員

この辺りを整理してもらえたらと思うんですが。

事務局

学校づくりというところと分けているのかなというところですが、創ると言わずに、設置するというような表現もあるかとは思いますが、少し整理をさせていただこうかと思えます。

会長

“創る”を使っている気持ちはわかりますよね。

事務局

以前の議論で、この“創る”を使うことは非常にいいことではないかというような議論を、審議会においてしていただいていますので、それを踏まえてこのように使っているということだと思います。

会長

やはり創造していくという意味合いで。

委員

私の受け止め方ですが、創造の場合の“創る”は内容を含めた“創る”だと思います。先ほどのつながりの時もこの“創る”を使っていて、では、学校をつくる時のつくるもこれでいいのかどうなのかと思えます。

会長

ハード面、建物をつくる時はこの“創る”は使わないですよね。おっしゃるようにハードとソフトを、仕組みと内容といった全体の内容を包含してこの“創る”であると捉えていて、単にハードだけ変えるのではなく、ソフトも含めて創っていくというニュアンスでいいのではないかと思います。

委員

内容も含めて表現するときは、あえてひらがなにすることもあります。

会長

その他よろしいですか。

では、次に行きたいと思います。13 ページ。四中、五中校区の校区変更についてお願いします。

事務局

では、続いて（2）第四中学校校区、第五中学校校区の校区変更についてです。まずは読み上げます。

< 13 ページ 「（2）第四中学校校区、第五中学校校区の校区変更について」を朗読 >

この提言については、現在門真市で唯一、1つの小学校から2つの中学校に進学するという現状を見直すということが大きな趣旨となっております。

ご意見どうぞよろしくお願いします。

会長

いかがでしょうか。

私からよろしいでしょうか。この提案の部分ですが、ここまで強くこの審議会で提案したかなど。むしろ下の留意点のような議論が中心だったような気もするんですが、どうですか。いろんな地域の状況とか踏まえながら、今後地域と話し合いながら進めていくという話を中心に、一緒になることを提案するというほどこの審議会ですごく言っていたような記憶が私自身はあまりないんですが。

委員

私としては東小学校だけが違う中学校に分かれてしまうということが良くないと思いますので、一緒にしてあげられたらと強く思います。四中校区、東小学校のことをよく知った方がいてないので、いればよかったのですが。

委員

昔、元町が小学校が門真小学校で、中学校は三中と六中に分かれて行くことがありました。その中で、神社の祭りなどで、同じ小学校の出身なのに揉めてしまうというようなこともありましたので、その当時にこれはだめだということで、一つの小学校から一つの中学校に行こうという形で元町も三中に統一されました。

委員

大和田小学校も一時、大池町だけ二中に行って、常盤町と大橋町が七中へ行っていました。困ったこともあったので、私の経験からして、中学校が分かれてしまうという状況は早急に解決してあげてほしいなと思います。

会長

地元では、必ずしもこっちの中学校に行くことに賛成というわけでもないというような話があったような気がしたのですが。

委員

経験から言うと絶対やったほうが良いと思います。

委員

私も経験上必要だと思います。

会長

では、強く提案しますということで、このままでいいですね。そのほか文言等で何かありますか。

副会長

現状を踏まえての提言の、中ほどの三段落目の“また、”から始まる場所ですが、事実だとは思いますが、小集団化する課題やという件が、ここだけ非常に具体的で、入学当初はいろいろあるでしょうが、3年経ってもこのような状況で、中学校での取組が弱いようにとられるかもしれないなと思ってしまいます。確かに馴染みにくいかマイノリティになってしまうということは現実にあるんでしょうけども、意味合いはわかりますが、表現を工夫できないかなと思います。

会長

おっしゃるように非常に具体的ですよ。

副会長

実際、毎年子どもたちが3年間ずっと固まっているようなイメージは持ちにくいんですよ。おそらく入学当初は少ししんどい思いをすることはあると思いますが。

会長

小集団化となると、中学校での横のつながりがうまくいっていないということですよ。

副会長

中学校でも集団作りの取り組みをして、子どもたちも馴染んで生活していると思うんですよ。でも、この書き方だと3年間しんどい思いをしていると取られてしまう恐れがあると思います。もう少し一般的な話はないですかね。

委員

今おっしゃったように本当に小集団化していく事実があるのかどうかということはどうなのでしょう。

委員

やはり3年間過ごしていると馴染んでくるので、最終的にはまとまってくるというようには聞いておりますが、入学当初には出身の小学校に分かれるという傾向にあるとも聞いています。

委員

だいたい1学期が終わって、夏休み明けに少し揉め事があって、それが過ぎればだんだん仲良くなるけど、それまでの間に色々なことがあるというふうには聞いたことがありますね。やっぱりこっち側の小学校は全員来て、一方の学校はごく一部の子どもしか来ないということで軋轢が出てくるということは、六中の時もあったように聞いています。気が強い子どもは1学期で馴染んでくるけれど、そうではない子どもは1年くらい掛かってしまうというようなことも耳にしたことがあります。

会長

6年間で培ってきた横のつながりが継承されないというような言い方がいいのかもしれないですね。小学校の6年間でつながっていたものが、中学校に行って2つに別れてしまうという、別れることの問題を言ったほうがいいのかもかもしれませんね。

委員

そういう表現の方がわかりやすい気がしますね。

委員

脇田小学校は、現在1学年3学級くらいだと思います。砂子小が1学級。そして、東小学校から四中に来る子どもは1クラスもないくらい的人数だと思います。3年間続けて、周りとの関係ができずに小集団なのかという、それは違うと思います。1学期の途中ぐらいまでで、あとは友だちも増えていきますので、小集団の問題も解消されていくと思います。ですので、会長がおっしゃられているように、1つの小学校から2つに分かれてということに焦点を当てたほうがいいかなと思います。

会長

文章の最初に2つの中学校に分かれて進学するという現状があります、というところの次に、横のつながりが分かれることで分断されてします、表現はもう少し柔らかいほうがいいと思いますが、横のつながりが継続されないということが課題になっているということを書いて、その上で縦のつながりということが出てこない、小中一貫のためにこっちにするというように読めてしまいます。横のつながりの継続性ということも言ったうえで、尚且つ縦のつながりも創っていきましようという話にしたほうが良いと思います。

それと、2段落目の「縦のつながり」を効果的に創るためにはという文章と、4段落目の門真市全体でから始まる文章はほぼ同じ内容じゃないですか。裏返しにして言っているだけで、同じ内容だと思いますので、まとめていいと思います。分かれるのは望ましくないと言っていて、上は一緒になることが望ましいと言っている、同じことの裏返しですね。

まずは横のつながりが継続されない、そして縦のつながりを創ろうとしてもなかなか難しい、だから一緒になりましようという形がいいのではないのでしょうか。ここは少し検討をお願いします。

その他いかがでしょうか。最後はすることを提案しますと強く言いきるということでもよろしいでしょうか。他なければ次に行きます。

事務局

14 ページ目 (3) 第五中学校校区の再編についてです。まず読みます。

< 14 ページ 「(3) 第五中学校校区の再編について」 を朗読 >

こちらの(3)につきましても、4の基本的な考え方を基に市内全域を検討していただいた結果の提案としてまとめさせていただきました。

ご意見があればよろしく願います。

会長

いかがでしょうか。

委員

下から4行目、“配置することが望ましい”の方がいいと思います。それから、下から2行目の“安全性確保策”については“策”はいらないのではないのでしょうか。

会長

その他いかがでしょうか、よろしいでしょうか。

委員

タイトルについてですが、(1)は再編について、(2)は校区変更、そして(3)はまた再編となっています。これはこのままでいいのでしょうか。(2)だけが校区変更となっていて、(1)、(3)は再編となっていますので。

事務局

(2)についても最初は再編と書こうかと思っていたのですが、学校の再編、適正配置ということでいくと、(2)は学校自体を触っているわけではなく、(1)、(2)、(3)と同じように3つ並べて書いていくと、少し(2)だけ違うというように読めてしまうのかなと思いましたので、わかりやすくするために、(2)は学校の統合ということを行っているのではなく、校区の変更を言っているということを明確にしたほうがわかりやすいかなと思い、あえて分けて書いておきますので、そこも含めて議論いただければと思います。

委員

確認だけです。第3次答申では具体的提言はすべて再編となっているので、そのあたりの整合性が気になっただけです。

会長

他はいかがでしょう。ではこれは、両小学校を統合、新小学校を設置ということでよろしいですか。

委員

それがいいです。

会長

では、15 ページ、これからの門真の学校づくりについての留意事項について説明をお願いします。

事務局

15 ページの「5 これからの門真の学校づくりについての留意事項」について説明します。先ほどの具体的提言を実際に進めていくことはもちろん、これから門真において学校づくりを考えていくときに気を付けるべきこととして5 点にまとめております。まずは読みあげます。

< 15 ページ 「5 これからの門真の学校づくりについての留意事項」
を朗読 >

以上、5 点について審議会での委員の皆様の発言を基に留意事項としてまとめさせていただきました。こちらにつきましてご意見ございましたらどうぞよろしくお願いたします。

会長

先ほどの提言を踏まえて進めていく上で、何に気を付けなければならないのかということがここに書かれてあるということですが、いかがでしょうか。

委員

学校づくりの場合の“つくる”はひらがなを使っていますが、先ほどは“創る”を使っている箇所もあって、校舎の設置、教育内容も含めた場合は漢字の“創る”を使ったかと思うのですが、この学校づくりについても、校舎も教育的な内容も含めてのことだと思いののですが、こちらはひらがなになっています。これはどのように使い分けているのでしょうか。

事務局

“学校づくり”というワードについては、第1 回目よりひらがなで来ているかと思っています。“学校づくり”と“学校を創る”ということは少し意味合いが違うのかなと思っています。先ほどから議論いただいているように、“学校づくり”はハードだけではなくてソフトも含めた、これからの教育内容も含めた学校づくりだと思うので、これは当初から“学校づくり”とひらがなで来ています。新しい学校を創るというところについては少し議論の余地はあるのかなとは思いますが、“学校づくり”を漢字でというイメージは持っていないという

ところが正直なところでは。

委員

こっちが正しいということではなくて、今のような説明が私たちとしても使い分けておかないと、今のような質問があったときにどう答えるんだということがありますので、今はっきりと使い分けがわかりましたので私はそれでいいと思います。

委員

(3)の市全域のこれからの学校づくりに向けた継続的な議論というタイトルにもありますとおり、具体的提言に至らなかった学校につきましても、早い段階でこのような審議会などで話し合っていく必要があると思います。とりわけ第3次答申にあった上野口小学校と大和田小学校については今回具体的な提言としては書かなかったわけですが、この2校も含めて、今後四中、五中校区以外の学校についても新たにどのような形で考えていくのか、このような視点で考えることが重要だと思います。そういった意味からも、ここにきちんと書かれていることが大切なことだだと思います。

会長

ありがとうございます。

この(1)から(5)の順番はこの順番でいいのでしょうか。

委員

(1)、(2)があって、もっと広い話が出てくるという形でいいと思います。

委員

(3)はもっと後ろでもいいかもしれません。人数的にもまだ余裕のある学校もあるので。

委員

継続的に議論することが重要だと書かれていることが大事で、今後の上野口や大和田や他の学校もあるので、そのことを忘れないことが大事だなという感想なので、あえて文章にしてということではなく具体的な校名を書かなかったけれども意味があるなと思っています。

会長

(3)は最後のほうがいいんでしょうか。(1)(2)(4)(5)はある学校の再編を考えるときの留意点で、(3)は特定の学校ではなくて、もっといろんな学校について議論を進めていったほうがいいですよという話ですから最後でいいと思いますが。(1)(2)(5)(4)(3)という順番ではだめですか。

委員

(4)を先に持ってきてもいいような気もしますが、難しいですね。(1)通学上の安全確保も大事でしょうし。

会長

でも(4)が最初でもいいですね。早くしろっていうことで。そして実施するにあたってはこういうことに気を付けましょうということで(1)(2)(5)があつて、そして最後全体も継続的に考えましょうという形がいいのではないのでしょうか。

通学路の安全なども大切なことなんですけど、これが進まない限りは(1)も(2)もないわけですからね。

委員

会長のおっしゃる通りです。

会長

では(4)が1番で、(4)(1)(2)(5)(3)でいいですか。

委員

やはり(3)を上にあげておきたい気もしますが。

会長

まずは、提言が実行されるということが大事ではないですか。

委員

その通りですが、(3)が最後というのも少し違和感もあります。でも、安全確保という視点も重要なので上に書いておきたいですね。

会長

統合の際に気にされる点ではありますよね。

委員

(4) (1) (3) (2) (5) はどうでしょうか。(2) と (5) は似ていますよね。

会長

(1) (2) (5) はですね、再編のある学校区についてこういうことに気を付けなさいと言っているもので、これはセットにしておいたほうがいいと思います。

委員

では、やはり (3) を最後にしておくほうがいいですかね。わかりました。

会長

では、順番は (4) (1) (2) (5) (3) でお願いします。内容に関してはよろしいでしょうか。

では、次の 16 ページの「おわりに」をお願いします。

事務局

16 ページ目おわりにです。まず読みます。

< 16 ページ 「おわりに」 を朗読 >

「おわりに」については審議会を終えての感想と総括ということで、審議会の雰囲気伝わればよいかと思い作成しました。委員の皆様が、本当に子どもたちのことを考えて様々な視点からご意見していただいた会議であったと思っておりますので、その点を強調しております。また、地域の方も学校や子どもが好きという気持ちを強くお持ちですので、その思いをしっかりと汲んで良い学校づくりを行っていくよう記述を行っております。ご意見どうぞよろしくお願い致します。

会長

いかがでしょうか。

委員

感想になりますが、この答申は非常にまとまりのある、整合性のあるもので、これまでの話し合いをまとめていて、よくここまで持ってこられたなと思ひ感

心しております。そして、この答申の基となっているのは、第2回目に皆さんで話し合いをしたときに、人のつながりを活かしていくということが大きなテーマであると意見として出てきたことが答申に結びついたとっておりますので、本当にいいものに仕上がったと思っております。ただ、私たちがいいと思っていることでも、初めてこれを見た方もいいと思ってくれるかが、後の課題かなと思えます。ありがとうございました。

会長

ありがとうございました。他にご意見ありますか。

委員

感想になるんですが、この会を通して、大学の先生方のお話を直接お聞きする機会を頂いて、わからないなりに一生懸命考えて、学校を統合するということは単に2つと3つの学校を引っ付けるといったものではなくて、子どもたちの未来のために新たな学校はどうあるべきかということを考えることだということや、教育の内容の変化にも基づくことが必要であったり、門真市の街の変容なども考慮しながら考えることが大切なんだと思えました。そういった意味では、答申の内容についてよくできているなと思うことと、あとはこの内容を基にして、しっかりと教育委員会の方々に検討していただいて、いい学校を見学できる日が来ればいいかなと思えます。

会長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

事務局

第2段落の最後の方に“事務局も含めた委員全員”となっているので、“委員をはじめ、門真市教育委員会事務局も含めた全員が”というような形にさせていただければいいかなと思えます。事務局は委員ではありませんので。

会長

この最後の文章すごいですよね。私たちの思いが全部込められているすごくいい文章だと思います。ありがとうございます。

では最後に全体を振り返って何かございますか。これで最終的なものになりますので。よろしいでしょうか。

では、これで答申（案）のチェックは終了します。続いて資料編について簡単に説明をお願いします。

事務局

資料編をご覧ください。一つひとつ説明している時間ありませんので、お目通しいただければと思いますが、これまでの審議会での資料も含め、審議会に関しての条例や委員名簿、諮問内容等を載せています。それから過去に行われた第1次、第2次、第3次審議会の答申内容等についても載せております。また、後ろの方には子どもの数の根拠となる資料や、各中学校の基礎資料、審議会で使用したものについては第何回目に使用したものかということに記載しております。こちらについてはレイアウトについては最終どのように製本していくか検討中ですが、載せようと考えている資料についてはこの内容ですので、資料の過不足等ございましたらご意見いただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

会長

いかがでしょうか。この資料を加えたほうがいいのか、資料の中身についてご意見ありましたらお願いします。

会長

資料編 25 ページ以降の、校区のめざす子ども像の“子”は漢字でいいですか。

事務局 すみません。そのあたりの整合性は答申に合わせて資料の文言等については最終チェックさせていただきたいと思えます。

委員

学校は漢字の“子”を使っていますね。

会長

資料の順番なんですけど、17 ページの学級数の現状が先に来て、19 ページに子どもの数のグラフが来ていますが、逆の方がよくないですか。19 ページが先に来て、21 ページの次に10の小、中学校の学級数が来たほうがよさそうですね。

ちなみに、この今日前に貼っている図は載せませんか。

事務局

22、23 ページにある図を置き換えるかどうかかと思えます。もともと22、23 ページにあった図を使って、その後前にある図に代わっていったので、どちらがいいかということで検討してもらえたらいいかと思えます。

会長

小中一貫の話もあるので、前に貼っているもののほうがわかりやすいと思います。

事務局

では、そのように変更します。

会長

その他いかがでしょうか。

無いようでしたら、以上で答申（案）、資料編も含めて完了ということにしたいと思います。次回は今回のものを修正したものが出てきて、それは最終案としてご確認いただく程度になるかもしれませんが、よろしくをお願いします。

では、最後事務局からお願いします。

事務局

次回第8回審議会は2月28日の午後2時からの開催としておりますので、よろしくお願いたします。以上です。

会長

ありがとうございます。次回が最後になります。またどうぞよろしくをお願いします。本日はこれにて閉会したいと思います。どうもありがとうございました。